未来の保育士に保育の魅力を伝えるため
～東京都の「高校生向け保育の仕事職場体験事業」の取り組み～

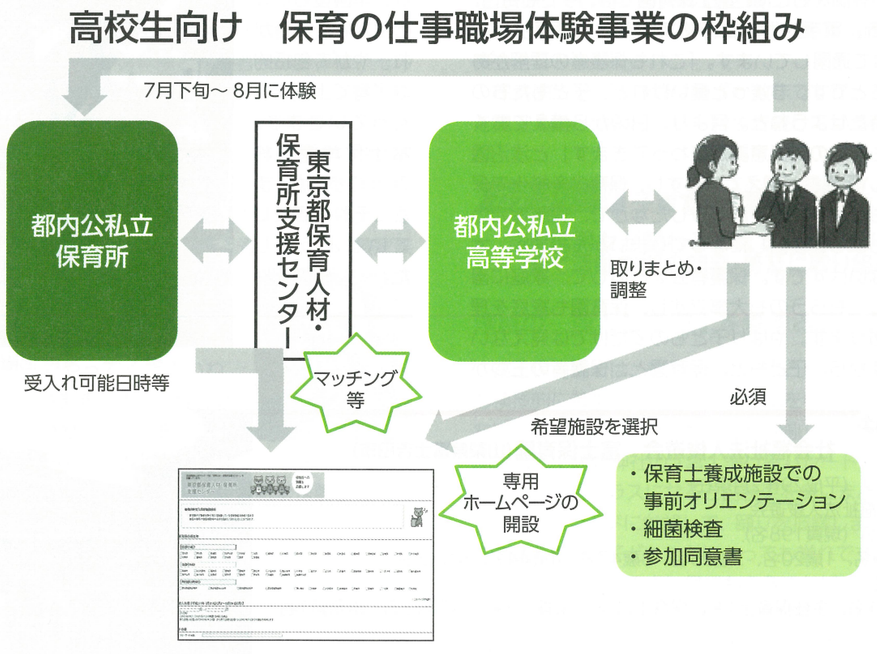
社会福祉法人東京都社会福祉協議会　東京都保育人材・保育所支援センター
主任　池田 明彦／保育人材コーディネーター　田中 菜々美

・東京都：人口13,532,409人〔平成28年12月1日現在〕
・公立保育所数：公設公営745園、公設民営156園
・私立保育所数：1,441園
・公立認定こども園数：24園　内訳（幼保連携型6園、保育所型18園）
・私立認定こども園数：37園　内訳（幼保連携型15園、保育所型22園）
〔保育所数・認定こども園数：平成28年4月1日現在〕

◆はじめに

東京都では、核家族化や女性の社会進出を背景に、これまで積極的に保育サービスの拡充に取り組んできました。保育所等の整備と併せて、保育人材の確保事業として平成21年9月から、潜在保育士の再就職支援を中心とした事業（保育士就職支援研修・相談会や保育士就職支援セミナー等）が東京都社会福祉協議会（東京都福祉人材センター）に委託されました。平成25年度には国の「安心こども基金」により「保育士・保育所支援センター（以下、センター／平成26年度に現在の名称に変更）」が開設されました。

また、平成26年度より就職後のアフターフォロー強化のため、保育人材コーディネーターの増員が図られるとともに、「保育士の早期離職防止のためには、就業前に保育現場に関わる機会を多く持つこと等により、保育現場や保育士の仕事への理解を深めることが必要」との課題認識のもと、「①保育の仕事の魅力ややりがい、保育の仕事の意義・専門性を伝える」、「②保育の仕事に対する理解を深めた上で、進路を選択できる」、「③保育士を目指す学生そのものの裾野を広げる」の3点を主な狙いとして『高校生の保育の仕事職場体験事業』をモデル事業として実施しました。その結果、多くの高校生からの参加希望があり、大変好評であったことを受け、平成27年度から本格実施しています。



◆事業の概要

本事業は、主に夏休みの期間中、都内の高等学校に通う生徒が保育所等で2日間の体験を行うものです。本センターが、学校を通じて希望者を募り、受け入れを希望する保育所等にマッチングする仕組みです。また、参加決定者には、保育士養成施設の協力により実施する「事前オリエンテーション」に参加すること等を義務づけています。

モデル事業（平成26年度）として、定員30名で募集したところ、約10倍となる62校・284名の応募があり、25名を実際の体験につなげました。本格実施となった平成27年度は定員を300名としましたが、約2倍の101校・660名の応募があり、今年度（平成28年度）は、さらに700名の定員に引き上げたところ、117校・705名の応募がありました。

今年度の参加者の95.3％は女性で、3年生が全体の46.5％と一番多く、2年生が29.1％、1年生が22.2％でした。

【体験最終実績数】

平成26年度	23校　25名	受け入れ　7園（内、公立0園）
平成27年度	100校　484名	受け入れ　196園（内、公立6園）
平成28年度	117校　654名	受け入れ　213園（内、公立5園）

◆事業の効果

参加者の体験直後の感想としては、「大変満足」（80.4％）、「満足」（17.9％）とほぼ全員が体験に満足しており、「保育の仕事の魅力や意義について学ぶことができたか」との設問にも、「大変できた」（77.0％）、「できた」（21.1％）と高い評価を得ています。

具体的には「保育所の1日の流れをよく理解することができた」「将来保育士になりたいという気持ちが、さらに強まった」「子どもたちの成長を見ることができ、やりがいのある仕事だと思った」等、当初の目的どおり、保育の仕事への関心や理解が深まっていることが分かります。

受け入れ先の保育所等にも、本事業による効果が認められます。「園としても、とても貴重な学びの時となった」「高校生が保育をすることを楽しんでいる姿をみて、現場の保育士のやる気にもつながった」「体験を終え、保育士という仕事への意欲が高まったと話してくれたことが、何よりうれしく、また受け入れをしたいと感じた」等の声が挙げられます。

半年後に実施した生徒の進路調査（平成27年度）によると、「保育・福祉分野への進学・就学意欲がより高まった」が最も高く62.4％、もともと保育・福祉を含めて進学・就職を考えていない（あるいは決めていなかった）者で「当該分野へ進路変更や進学・就職を考えるようになった」者が8％あり、参加者全体の約7割に保育・福祉分野へ肯定的な変化がみられた点は特筆すべき事項と考えます。

一方で、「保育・福祉以外に進路を変更」した方が6名いました。「看護や医療に進みたいと考えるようになった」「保育士は向いていないと思った」等、体験を通じて、自分の関心や向き不向きをより自覚した内容であり、保育現場への否定的な意見は見当たりませんでした。

◆今後の課題

本事業の今後の課題は、大きく2点あると考えています。

1点目としては、「関心がない生徒にどのように広めていくか」です。現状では関心のある生徒が体験を通じ、より理解を深める事業になっていると言えます。参加者の裾野を広げるためのPR方法の検討等が課題です。

2点目は、「保育士実習」でもなく「体験ボランティア」でもない「職場体験」の位置づけとしての、事業目的についてです。事業実施にあたっては、高校生の受け入れ先の保育所等をはじめ、高校や養成施設とも事業の趣旨や意義を共有し、効果のある事業にしていくことが必要と考えます。